

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（国際交流・協力コース）

項目	国際交流・協力	対象学年	2年	場所	学習室1・2
テーマ	韓国文化の理解				
講師	神戸女子大学非常勤講師 権珍嬉				
<p>講義内容</p> <p>地理的位置からして日本と韓国は古くから盛んに交流をして来ました。キムチやチヂミなど日本でも根づいた韓国料理等は身近にある韓国文化の一つです。最近では韓ドラやK-popなど韓国の芸能を幅広い年齢層で楽しんでいる様子です。隣国韓国とは多くの人が既に少なかれ多かれ関わりを持っていると言えるでしょう。この講義では、知っているようで知らない韓国、似て非なる韓国を各論から詳しく考察していきます。食文化や住居など日常生活からみる韓国文化、家族・教育・軍隊制度や宗教などの韓国社会の様子、多様な言語表現や行動で現れる韓国独特のコミュニケーション方法などがその内容です。この講義を通して、身近にある韓国文化をより楽しむようになること、また、韓国文化の理解をより深めることをねらいます。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>皆さんの頭に思い浮かぶ韓国は何ですか。韓国に関するQ&Aから講義を始めます。韓国や韓国文化に興味を持てるような楽しい話題を盛り込みました。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（国際交流・協力コース）

項目	国際交流・協力	対象学年	2年	場所	学習室1・2
テーマ	ロシア経済の課題／ユーロ危機後の中東欧				
講師	神戸大学大学院経済学研究科教授 吉井 昌彦				
<p>講義内容</p> <p><u>ロシア経済の課題</u></p> <p>ロシアの市場経済移行は、1991年末のソ連解体直後、1992年1月に開始されて以来、四半世紀が経過した。1990年代の混乱の時期を脱し、2000年代に入ると、プーチン政権の下で、新興 BRICs 経済の一角として著しい経済成長を見せた。しかし、2008年秋のグローバル金融危機以降のロシア経済は、馬脚を現し、石油・天然ガス輸出へ依存した経済構造から脱却できないでいる。日ロにおいても、東シベリア・サハリン開発が進んだ結果、資源依存型の経済関係へと変わってきた。今後の日ロ関係を考える上でも、ロシア経済の強みと弱みを理解しておいて頂きたい。</p> <p><u>ユーロ危機後の中東欧</u></p> <p>1989年11月のベルリンの壁開放により中東欧諸国の市場経済移行は一気に進み、2000年代には EU 加盟を果たすまでになった。中東欧諸国経済はこの間、自動車産業を中心として EU 企業からの直接投資を受け入れることにより、「欧州の工場」へと変化し、経済発展を遂げてきた。しかし、2008年からのグローバル金融危機、ユーロ危機により多くの中東欧諸国はその経済的な弱みが露呈するとともに、ポーランド、ハンガリーなどいくつかの国ではポピュリズム（大衆迎合的）政治が横行するようになっている。この講義では、千中東欧諸国経済の四半世紀の展開を振り返り、拡大欧州の将来を考えてみたい。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>ロシア・中東欧の経済という日ごろなじみのない問題を扱いますが、出来る限り皆さんにお分かり頂けるようお話していきたいと思えます。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（国際交流・協力コース）

項 目	国際交流・協力	対象学年	2 年	場所	学習室 1・2
テーマ	神戸学①				
講 師	元芦屋大学教授 楠本利夫				
<p>講義内容</p> <p>国際都市神戸の原点・外国人居留地</p> <p>神戸は慶応3年12月7日（1868.1.1）に開港した。各国は外国人居留地に領事館を開設し、欧米貿易商が商館を構えた。開港翌年（1869）11月、スエズ運河が開通し、極東と欧州の海上距離が大幅に短縮され、東西の物流、人流が盛んになり、神戸は横浜とともに西欧文物の受け入れ窓口となった。</p> <p>開港は国際都市神戸の出発点であり、外国人居留地はその中心である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸開港のいきさつ ・外国人居留地とはどんなところだったのか ・内外人雑居地とはどんなところだったのか ・不平等条約撤廃への明治政府の努力 					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>国際都市神戸の原点となった開港と神戸外国人居留地を、パワーポイントを使用して講義します。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（国際交流・協力コース）

項 目	国際交流・協力	対象学年	2 年	場所	現地
テーマ	神戸学②（校外学習：神戸外国人居留地 現地案内）				
講 師	元芦屋大学教授 楠本利夫				
<p>講義内容</p> <p>国際都市神戸の原点・外国人居留地を歩く</p> <p>市庁舎 2 号館展望ロビー</p> <p>マラソン発祥の地記念碑</p> <p>東遊園地</p> <p>加納宗七像</p> <p>近代洋服発祥の地記念碑</p> <p>震災と復興の 1.17 モニュメント</p> <p>モラエス像</p> <p>シムの碑</p> <p>外国人居留地</p> <p>真珠会館</p> <p>運上所跡（神戸開港式）</p> <p>海軍操練所跡記念碑</p> <p>居留地 15 番館</p> <p>居留地行事局跡（居留地 38 番館）</p> <p>神戸事件記念碑（三宮神社）</p> <p>鯉川筋</p> <p>海軍營之碑（海軍操練所顕彰碑）</p> <p>メリケンパーク</p> <p>震災メモリアルパーク</p> <p>海外移住者像「神戸港移民船乗船記念碑」</p> <p>ハーバーランド</p> <p>モザイク岸壁</p> <p>史跡 明治天皇御用邸跡</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>外国人居留地を歩き、神戸港を船で巡る楽しい一日にします。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（国際交流・協力コース）

項目	国際交流・協力	対象学年	2年	場所	学習室1・2
テーマ	変化するインド、変化しないインド				
講師	元神戸市外国語大学教授 和田幸子				
<p>講義内容</p> <p>インドは、釈迦の誕生した国、さらに古くはバラモン神々の信仰を集めた国、M.ガンディ、ネルーなどの独立の志士たちを連想させる国である。またIT産業に強い国や日本との原子力協定について論議されるなど、複雑で捉えどころのない国のように思われてもいる。</p> <p>本講義では、その複雑なインドの現状を文献的調査・現地調査の両方法によって分析し、その結果から、同じアジアの民族としての問題提起を行うものである。</p> <p>① インドの憲法は多様性の統一を旨とする。</p> <p>② 資源、エネルギー問題に独自の対処をする国として注目</p> <p>③ 国際太陽同盟（ISA）の提案国</p> <p>④ RE100（再生可能エネルギー利用100%の自治体の先駆性）</p> <p>ex; Odanthurai Panchayat の事例で</p> <p>インドはもはや途上国ではなく、アジアの先駆者的存在になっている。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>アジアには多様な文化があります。複眼的な思考で広く世界を見渡せば、すべてのものが再び新しくなります。何でも好奇心を持ちましょう！！</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（国際交流・協力 コース）

項目	国際交流・協力	対象学年	2年	場所	学習室1・2
テーマ	政府開発援助（ODA）の政策とその評価				
講師	同志社大学政策学部教授 山谷清志				
<p>講義内容</p> <p>昭和 29（1954）年に始まった日本の政府開発援助政策の歴史をふりかえり、「国際社会において名誉ある地位を占める」（日本国憲法前文）ために努力してきた先人の苦勞を偲び、あわせて、これからの日本の進路を考えたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本のODAの目的 戦後外交、自国の経済利益、人道支援、災害支援、グローバル化と日本経済 2. ODA体制の歴史 経済協力局、国際開発事業団、海外経済協力基金 国際協力局、国際協力機構、国際協力銀行 3. 日本のODA「政策」の特色 4省庁体制、JICA と外務省、外務省と他省庁 4. ODA「評価」（evaluation） 評価と監査は違う、評価と予算、政策評価とODA評価、日本の評価文化と国際社会 5. 評価からみえるODAの課題 アカウンタビリティの努力、国際機関・世銀との連携 6. ODAの新動向 環境、中小企業支援、国際的な評価の動向 					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>かなり専門的なお話が多いですが、1960年代から70年代のことを思い出しながら聴いていただければ分かりやすく、興味深いと思います。午前（総論）と午後（各論）です。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（国際交流・協力コース）

項目	国際交流・協力	対象学年	2年	場所	学習室1・2
テーマ	米国の課題：米国はこれからどこへ向かうのか				
講師	神戸市外国語大学名誉教授 大塚秀之				
<p>講義内容：独立宣言で人間の自由と平等を謳い上げた米国は、また、黒人奴隷制度に立脚した社会であった。奴隷制自体は南北戦争の結果廃止されたが、人種差別や白人優越思想といった奴隷制に伴う負の遺産は、社会の人種的分裂という形で今日の米国社会を強く規定し続けている。トランプ大統領の誕生も、米国史を貫く人種差別という文脈の中ではじめて正確に理解されよう。講義では、できる限り原典にあたりながら、この国の宿痾である人種差別が、どれほど米国とそこに生きる人々を傷つけてきたかを跡づけてみたい。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>“米国”というとどんなイメージが浮かんできますか、それを5点ほど挙げてみて下さい。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要 (シラバス) (国際交流・協力コース)

項目	国際	対象学年	2年	場所	学習室1・2
テーマ	日本の常識と世界の常識				
講師	小澤 輝郎 (元武庫川女子大学教授)				
講義内容	<p>1 足組 チェコ/ ドイツ/ ベラルーシ/ ロシア/ ☆イスラム系 韓国</p> <p>2 犬 ドイツ/ フランス/ ラオス/ アメリカ/ 中国 // キューバ/ ブータン ☆イスラム系</p> <p>3 飲食費 オランダ/ ハンガリー/ ルーマニア</p> <p>4 鰻 インドネシア/ イタリア/ スペイン</p> <p>5 鴛鴦 イギリス/ ニュージーランド/ アメリカ</p> <p>6 英才教育 イタリア/ 中国/ シンガポール</p> <p>7 会議 イスラエル/ スペイン</p> <p>8 奇数/偶数 ルーマニア/ 中国</p> <p>9 休日 スイス/ フィンランド/ ポルトガル/ フィリピン/ スリランカ ☆イスラム系/ ユダヤ系/ キリスト系</p> <p>10 奇食 フィリピン/ ザンビア/ ジンバブエ/ メキシコ/ タイ/ ビルマ</p> <p>11 禁食 ☆ユダヤ系/ イスラム系/ 中国系</p> <p>12 靴 イギリス/ ベルギー</p> <p>13 携帯電話 フィンランド/ ルクセンブルグ/ イスラエル</p> <p>14 五姓/八姓 韓国/中国</p> <p>15 国勢調査 ペルー</p> <p>16 自販機 ドイツ/ イギリス</p> <p>17 始業式 マレーシア/ ブルネイ// オーストラリア/ パラグアイ/ 韓国 //チリ フィリピン // ドイツ/ イラン // アメリカ/ 中国</p> <p>18 時間 ロシア// インド/ スペイン/ ポーランド/ インドネシア/ 南米諸国 // ドイツ/ オランダ/ スイス/ 中国/ 韓国/ ノルウェイ/ スウェーデン/ シンガポール</p> <p>19 正月 スウェーデン/ イスラエル/ イラン // 中国 ☆ヒンズー系</p> <p>20 宗教警察 サウジアラビア/ トルコ</p> <p>21 スカート/ズボン ルーマニア/ イギリス</p> <p>22 世論調査 フランス/ イギリス/ ドイツ/ シンガポール</p> <p>23 タクシー オーストラリア/ インド/ イタリア/ コロンビア</p> <p>24 釣銭 インド</p> <p>25 トイレ ベルギー/ オーストラリア/ イタリア/ ペルー/ トルコ/ フランス/ ベラルーシ/ 中国/ ロシア</p> <p>26 虹 アメリカ/ オランダ/ メキシコ/ ジンバブエ/ ザンビア/ リベリア</p> <p>27 指での数え方 アメリカ/ カナダ/ 中国/ フィリピン</p>				
講師よりメッセージ	<p>日本人の常識が他国では非常識であり、無礼、無智、驚愕の感じを与える事がある。 又その逆も多い。</p>				

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（国際交流・協力コース）

項目	国際交流・協力	対象学年	2年	場所	学習室1・2
テーマ	ひょうごラテンコミュニティの活動				
講師	ひょうごラテンコミュニティ代表 大城ロクサナ				
<p>講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸における阪神・淡路大震災時の経験（当時日本語がほとんどできなかった。） ・震災時の不安な経験を踏まえ、スペイン語圏出身者のために、「ひょうごラテンコミュニティ」を設立（神戸在住に限らず、日本全体が対象） ・「ひょうごラテンコミュニティ」設立までの経緯 ・「ひょうごラテンコミュニティ」の具体的な活動 ・「ひょうごラテンコミュニティ」に対する活動支援の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ①イベント等への参加 ②「ひょうごラテンコミュニティ」に対するボランティア活動 					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>「ひょうごラテンコミュニティ」の活動に対する理解を深めていただくとともに、スペイン語ができなくてもボランティア等で支援していただけることにつながることを期待しています。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（国際交流・協力コース）

項目	国際交流・協力	対象学年	2年	場所	学習室1・2ほか
テーマ	留学生との交流授業				
講師	神戸市外国語大学留学生				
<p>講義内容</p> <p>神戸市外国語大学の留学生との日本語によるグループ別の懇談会で、留学生一人に対し、学生数10人未満の少人数による質疑応答形式により、交流を目的として行います。</p> <p>特にテーマは設けず、留学生の出身国・地域、大学での専攻学科などに関する留学生からのプレゼンテーションを受けて、スタートします。午前と午後で留学生が入れ替わり、例年若い留学生との約45分間（午前・午後とも）の楽しい会話が中心となっています。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 留学生による自己紹介 ② 各グループに分かれて指定された教室で交流Ⅰ ③ 昼休み ④ 午前とは別の留学生と指定された教室で交流Ⅱ ⑤ 交流Ⅱ終了後、学習室1・2に集合し、留学生及び学生による感想披露を意見交換 					
<p>コーディネーターからのメッセージ</p> <p>20歳前後の若い留学生との少人数による会話は毎年盛り上がったものになっており、これまでのイメージと異なる内容を学習することができるとともに、外国人と直接会話することの楽しさを実感できます。日本語での会話ですので、ご安心下さい。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（国際交流・協力コース）

項目	国際交流・協力	対象学年	2年	場所	学習室1・2
テーマ	JICAの活動とシニア海外ボランティア				
講師	I.青年海外協力協会職員（講師は未定） II.シニア海外ボランティア経験者（講師は未定）				
講義内容 I. JICA の事業とボランティア制度 ①開発途上国とは ②世界の現状と今後の課題 ③国際協力の必要性 ④JICA（ODA の実施機関）の役割 ⑤JICA のボランティア制度 II.シニア海外ボランティアの実際 ①シニア海外ボランティアへの応募動機 ②応募から派遣決定まで ③派遣先について ④派遣先の社会と生活 ⑤派遣先での活動内容 ⑥派遣先で学んだこと ⑦その他					
コーディネーターからのメッセージ 日本のODAを実施しているJICA（国際協力機構）の事業について、基本的な理解を深める機会です。さらに、JICAが実施しているシニア海外ボランティア制度について学ぶとともに、同制度経験者の生の声を聴くことは、将来の国際協力に関する社会貢献活動を考えるうえでの一助となります。					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（国際交流・協力コース）

項 目	国際交流・協力	対象学年	2年	場所	学習室1・2
テーマ	日本語ボランティアの実際				
講 師	神戸YWCA 学院前主任講師 斎藤明子				
<p>講義内容</p> <p>第1回は、現在来日している外国人の現状とその背景を知り、また異文化理解に至る心の柔らかさを持つことから始めます。</p> <p>そして、日本語ボランティアをするために、まず「日本語と国語の違い」を認識し、次いで、スキルとして「日本人が使うやさしい日本語」の使い方を体験します。</p> <p>第2回は、実際に教えるにはどのようにするのか、入口の部分を体験して、学習者の側に立った教え方を共に考えてみます。日本語の音声や表記の知識を学んで、母語の奥深さも知ることができます。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（国際交流・協力コース）

項目	国際交流・協力	対象学年	2年	場所	学習室1・2
テーマ	神戸YWCAの活動—地域との共生を目指して				
講師	神戸YWCA 学院前主任講師 斎藤明子				
<p>講義内容</p> <p>世界中にある、YWCAという団体が設立された動機とその理念を伝えたいと思います。そして、公益財団法人神戸YWCAが実際に行っている様々な活動状況を紹介します。時代の流れを読み、今、地域社会で求められている働きを実行するべく動いている現状、例えば国際に関連するものとしては、地域在住の外国人と日本人との共生を目指した活動、また外国にルーツのある子ども達への支援など、草の根でこそ出来得る活動の内容を紹介します。</p>					
講師よりメッセージ					

シルバーカレッジ 講義概要 (シラバス)

コース・専攻	国際交流・協力	対象学年	2年	場所	学習室1・2
テーマ	「地域紛争」				
講師	同志社大学教授 月村太郎				
<p>講義内容</p> <p>かつて内戦と言われていた出来事は、地域紛争や民族紛争と呼ばれるようになりました。地域紛争は、冷戦終了後、各地で噴出しました。代表的な事例としては、ユーゴスラヴィアやルワンダの紛争を挙げることができます。最近は、テロ事件の影に隠れて、余り報道されなくなりましたが、例えば、「アラブの春」という民主化運動によって政権が崩壊したリビアやイエメンでは、地域紛争が進行中です。この講義では、ユーゴスラヴィアが4つの地域紛争を通じて、1991年から2008年にかけて、スロヴェニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、セルビア、モンテネグロ、マケドニア、コソヴォの7カ国に解体した過程を取り上げます。</p> <p>参考文献：月村太郎『民族紛争』（岩波書店、2013年）</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>ひとつの地域をじっくりと見つめ直すことは、国際関係全体をとらえる視角を構築することにも繋がります。この講義がその機会になりますように、皆さんと一緒に考えてみたいと思っています。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（国際交流・協力コース）

項目	国際交流・協力	対象学年	2年	場所	学習室1・2
テーマ	美術文化に見る国際交流				
講師	大阪教育大学名誉教授 田中 久和				
<p>講義内容</p> <p>美術文化における国際交流について、最近、美術館や博物館で開催された展覧会を参考にしながら、授業を進めていく。</p> <p>昨年の秋に開催された「北斎とジャポニスム展」（国立西洋美術館）やこの春開催された「ゴッホ展（巡りゆく日本の夢）」（京都国立近代美術館）などに見られるように、日本の浮世絵が西洋に渡り、それが主にフランスの近代美術の成立に大きな影響を与えた、という主旨の展覧会がいま注目されている。</p> <p>江戸時代末期に、それまでの鎖国から開国へと政策を転換した日本は、欧米を中心として海外との文化交流を広げていくが、とりわけその美術工芸品が西洋美術には見られない豊かな装飾性や独特の美学を持つものとして、欧米では高く評価された。</p> <p>とくに西欧の美術伝統に批判的であったフランスの画家たちが、日本から伝えられた浮世絵や工芸品に斬新な美を発見して近代絵画を創始したことは、印象派の絵画をはじめとして、いろいろの事例が示している通りである。それはジャポニスム（日本趣味）と呼ばれて欧米で広く流行した。</p> <p>しかしジャポニスムは、西欧の美術文化に大きな反響を呼び起こすとともに、そこには多くの誤解と歪曲もあったことも、見過ごしてはならない問題である。</p> <p>このように国際交流によってもたらされる日本の美術文化の変容について、主にジャポニスムの問題を取り上げながら、考察を試みたい。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>授業で紹介する美術作品について、図版プリントを配布しますので、それを見ながら、自分の意見を作ってくださいることを期待します。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（国際交流・協力コース）

項目	国際交流・協力	対象学年	2年	場所	学習室1・2
テーマ	用字・用語の使い方—分かりやすい文章を書くために—				
講師	神戸新聞読者センター・新聞づくり教室講師 小材天良				
<p>講義内容</p> <p>用字用語の使い方について、分かりやすい文章を書くために、日本新聞協会の基準等に基づいて、説明します。また、必要に応じて、演習問題を出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用字用語の基本 ・漢字の使い方 ・読みにくい固有名詞、専門用語等の取り扱い ・送り仮名 ・ひらがな、カタカナにおける注意点 ・外来語、カタカナ語の取り扱い ・数字、記号の表記 ・敬語における注意点 ・不快語の取り扱い ・その他注意すべき事項 					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>文章作成での注意すべき事項について、演習問題もまじえながら、具体的に説明します。文章作成における基本的な事項について理解を深めるとともに、読み手に分かりやすくする工夫など学んでいただければと思っています。なお、この講義は縦書きで、文字数を抑える等の新聞づくりの観点からの講義であることをご理解下さい。</p>					

シルバークレッジ 講義概要 (シラバス) (国際交流・協力コース)

項 目	国際	対象学年	2年	場所	学習室1・2
テーマ	グループ学習のめざすもの				
講 師	小澤 輝郎 (元武庫川女子大学教授)				
講義内容					
1章 学習					
1 学習とは 情報 → 記憶 → 思考 → 応用 → 発想 → 創造 → 行動					
2 いろいろな学習 経験学習 生活学習 系列学習 問題解決学習					
3 生涯学習 P. ラングラン 生涯学習振興法 教育基本法					
2章 グループ学習					
1 過去のグループ学習(第1期生～第22期生)					
2 テーマの選択/決定					
3 フィールドワーク 6K(研究/検証/観光/交流/協力/貢献)					
3章 グループ活動の効果					
1 ホーソン実験 (E. メーヨー) 2 相互作用 (G. ジンメル)					
3 第一次集 (C. H. クーリー) 4 予定調和 (W. ライプニッツ → A. スミス)					
5 グループ効果 (F. オルポート) 6 小集団の効果 (M. オルソン)					
7 シナジー効果 相乗効果 ハイブリッド効果					
4章 グループ ダイナミックス					
1 パーソナリティの力学 (K. レビン) 2 小集団の力学 (J. カートライト)					
3 小集団の相互作用 (A. ベントリー) 4 ゲマインシャフト					
5章 いろいろな会議					
1 ブレインストーミング (A. オズボーン) 2 イスラエル会議					
3 シンポジウム (プラトン) 4 モラトリアム会議 (D. カイリー)					
5 ウイン会議 (C. M. タレーラン) 6 デルファイ会議 (O. ヘルマー)					
7 コンクラーベ会議/カーディナル会議 8 時限会議 発表制限					
9 バズトーク					
6章 フィールドワーク					
1 資料主義 (毛沢東) 2 数量主義 (A. A. ワルラス)					
3 統計/比較主義 (W. ペティ) 4 実証主義 (E. マッハ)					
7章 グループ雑考					
1 グループイズム (R. ベネディクト) 2 グループ学習の長短 (E. デュルケム)					
3 分業 協業 (K. マルクス) 4 グループアプローチ (D. B. トルーマン)					
5 マスサイコロジー					
講師よりメッセージ					
人は毎日、家庭、職場、学校、友人、知人等グループの中で生活している。 学習におけるグループ活動の効果、必要性について考える。					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（国際交流・協力コース）

項 目	国際交流・協力	対象学年	2 年	場所	学習室 1・2
テーマ	グループ学習の楽しみ				
講 師	元芦屋大学教授 楠本利夫				
<p>講義内容</p> <p>午前：グループ学習の進め方 午後：報告書の書き方（執筆要綱）とパワーポイントのコツ</p> <p>カレッジにおける 3 年間の学習の総まとめとして、3 年次には、グループでテーマを決めて研究報告書をまとめます。報告書は中央図書館で公開展示されます。</p> <p>午前：「グループ学習の楽しみ」と題して、グループ学習のテーマ選定、グループ編成、資料収集、フィールドワーク等を講義します。</p> <p>午後：具体的な報告書の書き方とパワーポイントの実践的使い方を講義します。</p> <p>いうまでもなく、報告書は、内容はもとより、報告書としての体裁・作法も大切ですので、自己流の書き方ではなく、論文の一般的な書き方を講義します。</p> <p>また、発表会で使用するパワーポイントの作成方法について、実践的な方法を講義します。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>グループ学習の進め方と報告書の書き方、パワーポイントの作り方を、楽しく、講義します。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（国際交流・協力コース）

項目	国際交流・協力	対象学年	2年	場所	神戸市立中央図書館
テーマ	校外学習（神戸市立中央図書館）				
講師	神戸市立中央図書館 市民サービス係長				
<p>講義内容</p> <p>1、神戸市立図書館に関する説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ①図書館の意義（図書館法に基づく説明） ②市立図書館の歴史と概要 ③市立中央図書館の概要 ④図書館の具体的な業務 ⑤市立図書館相互の図書の貸借 ⑥図書に関する調査・相談サービス ⑦図書館の一般的な蔵書と特別なコレクション <p>2、神戸市立中央図書館のバックヤードツアー</p> <ul style="list-style-type: none"> ①図書館の日常業務の実態 ②他の図書館との蔵書の交換作業 ③古い貴重な蔵書書架の見学など 					
<p>コーディネーターからのメッセージ</p> <p>3年生のグループ学習に向けて、図書館の業務に関する理解を深めるとともに、具体的な利用方法を学ぶことは大切なことです。特に資料の収集にあたり、将来活用することになる図書館の調査・相談業務等を知ることは、グループ学習を進めるうえで、極めて有意義なことであると考えます。</p>					